

板橋区長期基本計画審議会(第3回)意見メモ一覧

No.	分野	意見
1	高齢	<p>1) 孤立の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・席上で意見が出ましたが、ひとり引きこもって孤立してしまう高齢者が問題です。また引きこもらないで積極的に出かける高齢者でも、話し相手がいないのも問題でしょう。</li> <li>・グリーンカレッジの審議会を傍聴した折に、区民公募委員の方で、「講演を聞いても誰とも話さずに帰ることが続いたが、OB会に入ることによってようやく周囲と言葉を交えることができよかった。そもそも誰かと話をしたいために出席しているようなものだ」との発言が頭に残りました。</li> <li>・施策のあり方を、「ひとりぐらし高齢者又は高齢者のみ世帯でも地域で孤立しないで安心して生活できるためには」と修正したいです。</li> </ul>
2	高齢	<p>2) 65～70歳の高齢者の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋山委員の意見にもありましたが、一般論として、この年代は高齢者の枠に括ること自体が問題と思えるぐらいに元気で、シルバーと呼ばれることに抵抗があり、本人にその認識のない人が多いと思います。</li> <li>・また、脂がのりきっていて知識も経験も豊富で、何かしたいのに「使われ道」がない状態でもあり、特に会社員リタイヤ組はその傾向が強いのではないのでしょうか。</li> <li>・「シルバー人材センター」をインターネットで検索してみたこともありますが、適当な職種がありませんでした。</li> <li>・「シルバー人材センター」のあり方を見直す、あるいはまったく別の形でこの年代を「利用する」方策があるとよいと思います。賃金は小遣い程度で十分です。</li> </ul>
3	高齢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「構想実現のために」の3つの仕組みをあらゆる施策の根本に。</li> <li>・特にマネジメント体制の確立が重要項目です。現場での課題改善がそのままOJTになるようにしてスキルアップしていくマネジメントが必要です。マネジメントの運用は地域ケアシステムを参考にする必要があります。</li> </ul>
4	健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康政策を医療や病気の側面からアプローチするのではなく、健康に対する板橋オリジナルの考えを構築すべきです。例えば、「病気でない」ことではなく、「いきいきと生きることを健康と呼ぶ」というのはどうでしょう。</li> <li>・健康は失って対策するのではなく、予防を超えて増進したり獲得したりするものだという考えの普及、啓蒙が重要です。</li> <li>・健康マイレージなどアイデアを出したいと思います。</li> </ul>
5	健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産年齢人口を確保して定住させ税収増を図るためには、安心して共働きできる環境が必要です。板橋区に住んでみたい、住んで良かったと思わせる環境づくりです。</li> <li>・そのためには安心して乳幼児を預けられる施設が必要ですが、待機児童数が増加している現状は改善しなければなりません。</li> <li>・子どもの発育を相談する、おばあちゃん代わりの施設の充実も必要です。子ども発達支援センターや子ども家庭センターがあるようですが、区内に1か所ではなく数か所が必要でしょう。</li> <li>・他区の状況が分かりませんが、もし板橋区が先駆けているのなら、そのことをもっと「広報」すればよいと思います。</li> <li>・子どもと併せて母親の健康管理も大切ですが、25～44歳女性の健診受診率が世代中最低(63%)なのも問題です。受診率アップの施策が必要です。</li> </ul>
6	健康	<p>土木や都市整備として、「まちを歩いて楽しむ」コンセプトを入れてもらえたら素敵だと思います。景色や色・素材など、道路・街路樹・建物に統一感や気づかいがあればよいと思います。</p>

No.	分野	意見
7	健康	<p>具体的に克服すべき病気の項目を決めて、「区」全体として楽しいスポーツ政策と連動して目に見える取組みをしたらどうでしょうか(長野県の東京版)。例えば、糖尿病の克服が運動と連動し、結果として透析がなくなり、いくら経費が削減できるのか、医療経済学の視点が大切だと思います。</p> <p>また、文部科学省は2015年度から「健康ポイント制度」を導入する自治体に補助金を出す方針を打ち出しています。同制度は、住民の健診受診や運動などをポイント化して記念品や商品券などと交換できるようにする仕組みです。こういった制度を導入し、より多くの区民が健康づくりに取り組むことで健康寿命を延ばし、医療費等の抑制につなげていくこと検討してはどうでしょうか。</p>
8	スポーツ	<p>以下を提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの文化性をEveryoneが享受できる街づくり</li> <li>・するだけでないみる、ささえる、はなす、きのの機会創出</li> <li>・スポーツの「a.意識改革につながる政策」と「b.インフラ整備(①他区、国内、海外からも集まる場、②区民が24h使える場)」</li> <li>・スポーツボランティアの資格制度を23区に先んじて行う</li> <li>・学校を中心としたインフラの開放の充実だけでなく、駐車場、倉庫、廃校、屋上などをスポーツ文化の場所としてもっと活用する</li> </ul>
9	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席上ではプロバスケットボールチームとの連携が論じられていましたが、一般区民の感覚では、身近な問題ではないと思います。「行政サービスが縮小してもやむを得ない分野」第2位というのも納得できます。</li> <li>・他方で、高齢者も含めて、ランニングやウォーキングする人が目立ってきています。特に歩くことは良い運動で、私も医師から1日1時間は歩くように指導を受けていますが、なかなか場所がありません。</li> <li>・石神井川流域は整備されていて、私もここで歩きますが、交通の安全な場所をもっと整備すべきでしょう。</li> </ul>
10	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役アスリートやトッププロ1名を呼ぶのも確かに盛り上がりますが、引退した選手やこれからの選手を支援する(アスナビのように)雇用や地域活動を拡げていくことが、“バルセロナ”型のスポーツ地域やクラブとなっていくのではないのでしょうか。</li> <li>・大会を開くにしても、団体、チームスポーツの参加条件を「シニア・ジュニア・女性混合」チームとするとおもしろいのではないかと思います。</li> </ul>
11	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校対抗のスポーツを実施してはどうか。</li> </ul>
12	生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館のハード整備については予算の問題があるでしょうが、蔵書資料の更新とインターネット対応はある程度可能ではないでしょうか。少しずつ実施してはいると思うのですが、近隣の東板橋図書館を使用する立場からはその実感がありません。</li> <li>・大学図書館が利用できれば一助にはなるでしょう。しかし、東京家政大学図書館は一般開放していますが女性限定です(やむを得ないと思います)。帝京大学医学部や日大医学部の図書館は一般利用不可です。分野が医学や健康に限られるでしょうが、区との契約で利用可能になることを望みます。</li> <li>・グリーンカレッジは良い制度です。私も「教養課程の学生」ですが、講座の数が少ないです。さらなる充実をお願いします。</li> </ul>
13	生涯学習	<p>生きていくために必要な知識の習得をもっと支援すべきです。食育・花育・消費者教育等々、区民の方が選択できる多種多様な項目を設定し推進してはどうでしょうか。高齢者の登用と事業の宣伝も必要ですし、大々的な「未来につづく板橋区文化運動」を展開すべきです。「研修による改革」が「住んで良かったと言える板橋」へつながると思います。</p>
14	生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を児童、生徒の勉強の場に開放してほしいと思います。今の中高生は塾に行くしかないし、大学受験生はレンタルルームを使用しています。夢と理想を言えば、24時間開放できるような新しい中央図書館を建設してほしいと思う。</li> </ul>